

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人神奈川芸術文化財団	
施 設 名	神奈川県立音楽堂	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	18,113	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	18,113	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	音楽堂アフタヌーン・コンサート 山田和樹指揮 東京混声合唱団 特別演奏会	2018年8月23日	山田和樹(指揮) 藤原道山、関一郎(尺八) 東京混声合唱団	目標値	832
		横浜能楽堂		実績値	804
2	第53回音楽堂クリスマス音楽会「メサイア」全曲演奏会	2018年12月8日	小泉ひろし(指揮) 山口清子(Sop) 彌勒忠史(C.Ten) 中嶋克彦(Ten) 青山貴(Bar) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団/神奈川県合唱連盟 ほか	目標値	1,163
		相模女子大学グリーンホール		実績値	入場者数1,084/ 合唱参加者数155
3	オープンシアター2018	2018年6月3日	上水樽力(P・作曲) 岡田滯(FI) レスパス弦楽四重奏団/舞台美術:滝善光 ほか	目標値	500
		神奈川県民ホールギャラリー		実績値	854
4	三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ!	2018年8月12日	三ツ橋敬子(指揮) 藤木大地(C.Ten) 田中理紗子 山本達史(バレエ) 鈴木和子(振付) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 ほか	目標値	1,325
		横須賀芸術劇場		実績値	1,222人(入場者数667/関連企画参加者数555)
5	子どものためのアウトリーチ事業	2018年11月16日~2019年2月28日	丸田美紀、磯貝真紀(箏) 長谷川道将(尺八) 中村仁美(笙) 谷内信一(龍笛) Coro de Picapau(Perc&G&Cl)、渡部玄一(Vc) 白石光隆(P) ほか	目標値	1,200
		横浜市立小学校ほか		実績値	1,014
6	神奈川県西部・二市八町・地域活性化・連携事業	2018年8月18日~2019年3月10日	キハラ良尚(指揮) 東京混声合唱団、小田原少年少女合唱隊/市原愛(Sop) 林美智(M.Sop) 加来徹(Bar)/若鍋久美子(Perc)/ブルーオーロラサクソフォン・カルテット/上水樽力(P・作曲)/横森由衣(Sop) ほか	目標値	1,200
		小田原市民会館ほか		実績値	2,371
7				目標値	
				実績値	
8				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	6,220
				実績値	7,349

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

平成30年度の1年間、改修工事のため休館という状況を活用し、交付要望書記載のとおり神奈川県内の他の会場を活用し、地元との連携で地域の特性にそった各事業の適切な実施を行なった。

◎音楽堂アフタヌーン・コンサートは横浜能楽堂と共催で実施。日本の伝統芸能を発信する館の特性に基づき尺八奏者2名をゲストに迎え、柴田南雄作曲の「追分節考」等を演奏し、能楽堂と音楽堂のレギュラー客層の対流を起こすことができた。また両館は同じ紅葉ヶ丘地域に立地するため、要望書の社会的ミッションに書いた文化ゾーンとしての紅葉ヶ丘の魅力発信のきっかけ作りができた。

◎第53回音楽堂クリスマス音楽会は相模女子大学グリーンホールと共催で実施。150名超の県民合唱により、メサイア全曲演奏が一般的には行なわれていない相模原の合唱愛好者、聴衆にとって新しいレパートリーへの興味を喚起し、完売に近い集客を達成した。

◎オープンシアター2018では、神奈川県民ホールギャラリーの空間を活用し、展示、巨大ぬり絵、紙を使った手作り楽器などのワークショップ、ミニコンサート等、未就学児から大人まで出入り自由で楽しめる空間を演出し、神奈川県民ホール、KAAT神奈川芸術劇場との三館合同事業で回遊性をより促進し、周辺の山下町界隈のにぎわいに資することができた。

◎三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！は、横須賀芸術劇場との共催で実施。同館のオペラハウスとしての特性をいかしたプログラムと、地元出身の若手歌手などを起用し、聴衆が親子で参加できる合唱ワークショップや同館の人気企画であるバックステージツアー等を盛り込んだ関連企画を併せて開催した。

◎子どものためのアウトリーチ事業は、計画に基づき横浜市内の小学校と県内の特別支援学校等で実施し、障害を持つ子どもと音楽の出会いを促進することができた。

◎二市八町・地域活性化・連携事業では、県内各地の官民様々なセクターと協働し、ユニークヴェニューである古民家を活用して子どもたちに水遊びと音楽作り体験を提供するなど、地元の特性に基づいて工夫した展開ができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

平成30年度に実施した事業はすべて平成27年度、もしくはそれ以前から、館が神奈川県の中核拠点となって歴史的に毎年継続して取り組んでいる普及啓発事業であり、建物が改修休館中であっても、事業自体は継続して実施することによって県民の文化活動、県内の文化振興を途切れさせないということが極めて肝要である。

報告した継続事業（音楽堂アフタヌーン・コンサート／音楽堂クリスマス音楽会「メサイア」全曲演奏会／オープンシアター2018／三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！／子どものためのアウトリーチ）は、未就学児童から高校生までの未来を担う子どもたちに芸術を鑑賞したり創造に参加したりする入口を開く働きかけ、高齢者に芸術活動を通して生きがい形成したり、芸術鑑賞の場で異世代を含む他者との触れ合いを促す働きかけであり、今回の助成をいただいたことによって、これらがすべて実施できたことは文化的に非常に意義深い。

また、休館中だからこそ取り組むことができた「神奈川県西部・二市八町・地域活性化・連携事業」においては、館の立地する横浜を中心とした都市部を離れ、主に県西部において公立の音楽専門施設を持たない地域の町の政策や教育の担当者と話し合いながら、地域の住民のニーズに即しつつ、これまでの館の実績や人的ネットワークを活かした一流の芸術家による質の高いコンサートやワークショップ等の事業展開ができた。これは助成をいただいたからこそ実現した、県内における芸術に触れる機会の地域間格差を乗り越えるきっかけ作りであり、地域の文化中核拠点としてのあり方を見つめなおし、今後の県内の多様な文化的様相を受け止めるきっかけにもなり、県立文化施設が取り組む活動として、社会的、経済的意義が極めて高かったといえる。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

○事業ごとに設定した入場者・参加者数目標／1事業を除き、各事業で概ね90%の目標達成。
（「神奈川県西部・二市八町・地域活性化・連携事業」では目標の2倍以上の入場者・参加者数を達成）。年間の事業全体としては目標を約18%上回る入場者・参加者数を達成。 その他要
望書の指標に基づく達成状況と参考値は下記の通り。

<共通（平成30年度全体）>

①パブリシティ・広告への1事業あたり平均露出件数実績：16.2件（達成）

参考値（平成29年度12.25件 → 15件以上）

②有料販売公演における平均チケット販売率（販売席数／販売可能席数）実績：78.5%（達成）

参考値（平成29年度73.5% → 維持）

③他言語サービス対応事例数（チラシ、HP、プログラム、アナウンス、掲示、係員対応等）
実績：12件（達成）

参考値（平成29年度 7件 → 10件以上）

④障害者サービス対応事例数（車椅子来場者、盲導犬来場者の平均実績）

実績：1.4件*すべて車椅子（達成）

参考値（平成28年度 0.3件 → 1件以上）

⑤県域他セクター（自治体、教育委員会、NPO、劇団、芸術・障害者支援団体等）との年間連携数 実績：45（達成）

参考値（平成29年度 10件 → 20件以上）

⑥<事業番号1：アフタヌーン>来場者アンケート満足度「大変良かった・良かった」%

実績：96%*アンケート 良かった58/どちらかといえばよかった11 回収72件（達成）

参考値（平成28年度 95% → 維持）

<事業番号2メサイア>

⑦合唱に参加した県内合唱団数 実績：23団体*高校生5校を入れると28団体（未達成）

参考値：（平成29年度 24団体 → 30団体以上）

⑧合唱参加への県内合唱団員応募者数 実績：172名（達成）

参考値（平成29年度 93名 → 120名以上）

⑨来場者アンケート満足度「大変良かった・良かった」% 実績：93%（達成）

参考値（平成28年度 90% → 維持）

<事業番号3オープンシアター2018>

⑩参加者・来場者アンケート満足度「大変良かった・良かった」% 実績：71%（未達成）

参考値（平成29年度 89% → 90%以上）

<事業番号4三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！>

⑪ワークショップ等関連プログラムへの申し込み倍率実績：1.29倍*応募数指揮者体験2/15、ジュニアスタッフ15/25、夏オケ合唱隊定員なし/63（未達成）

参考値（平成29年度 1.42倍 → 1.5倍以上）

⑫参加者・来場者アンケート満足度「大変良かった・良かった」% 実績：92%（達成）

参考値（平成29年度 89% → 90%以上）

<事業番号5子どものためのアウトリーチ>

⑬参加した子どもの人数 実績：1,014名（達成）参考値（平成29年度 410名 → 500名以上）

<事業番号6二市八町アウトリーチ>

⑭参加者・来場者アンケート満足度「大変良かった・良かった」% 実績：92%（達成）

参考値（比較対象データなし → 90%以上）

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

◎事業期間

平成30年4月から平成31年3月までの期間を十分に使って当初の計画通りの事業実施ができた。

全体としては、年間の前半にレギュラーの継続事業を実施し、後半に県内各地と協働する「二市八町アウトリーチ」を実施する、というスパンであった。これは県内各地の会場探し、官民の各地元セクターとのニーズのすり合わせ、協働関係の構築などに時間をかけたため。

<アフタヌーン・コンサート> 8月22日リハーサル、8月23日公演（昼夜2回公演）：計2日

<クリスマス音楽会「メサイア」> 10月～12月「メサイア未来プロジェクト」の高校生合唱練習延べ5回、大人の合唱練習10回 12月7日オーケストラ合わせ 12月8日公演：延べ計17日間

<オープンシアター> 5月28日～6月2日搬入・仕込み・リハーサル 6月3日本番 6月4日搬出：計8日間

<三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！> 8月10日～11日搬入・仕込み・リハーサル／関連ワーク

ショップ 8月12日公演・交流会：延べ計3日間

<子どものためのアウトリーチ> 6月27日・11月16・19・20日/12月10・11・12・13・17・18・19・20日/2月4・28日：計14日間

<二市八町> 8月18日/11月7日/12月19日/1月20日/2月7・9・14日/3月2・5・6・10日 全11日間

現地での打ちあわせ、会場下見、準備等を除いて上記延べ55日間の事業開催日数となった。

◎事業費

申請した事業全般において大幅な事業費の増減はなく、概ね計画通りに進んだ。

支出・収入総額実績 [バリアフリー・多言語対応/助成対象外経費含む]：45,468千円（当初予定額48,884千円）

・最も大きな支出項目は出演費であった。金額の大きかった主な出演者は下記の通り。

<アフタヌーン・コンサート> 山田和樹指揮東京混声合唱団（2回公演）

<クリスマス音楽会「メサイア」> 小泉ひろし指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団

<三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！> 三ツ橋敬子指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団

<二市八町> キハラ良尚指揮東京混声合唱団（小田原）

・次に大きな支出項目は他会場を利用したための会場利用料・付帯設備費等であるが、一方「二市八町アウトリーチ」において、開催地の各官民セクターとの共催、協働の交渉が成り立ち、有料で利用する予算を考えていた会場費の一部が減額できたことで、全体としては予定より減額できた。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

全国で最も古い公立の音楽専用ホールとして、60年以上を通して神奈川県民の誇りであり、県民が高度な音楽芸術に触れる中核拠点として機能してきた歴史を持つ神奈川県立音楽堂のプレゼンス、ブランドイメージに即して、音楽事業としての上質性、本物志向を担保することに留意した。

また同時に、平成6年に設立され、オペラ、バレエ、コンテンポラリーダンス、現代音楽、現代美術等の幅広い芸術ジャンルにわたって第一線のアーティスト、作品の鑑賞機会を県民に提供し、若手を含む多様なアーティストへの委嘱新作や複合的な芸術ジャンルのコラボレーションを含む前衛的プロジェクトへの取り組みも継続してきた公益財団法人神奈川芸術文化財団の企画・制作力、幅広いネットワークを活用することに留意した。

結果として、全事業が普及啓発事業となった本年度にあっても、出演したアーティストの創造性、獨創性を存分に生かしたこれまでにない新しい芸術的取組みへの挑戦が実現し、また、子ども向けのワークショップやアウトリーチ等であっても、安易にアニメソング等を採用するのではなく、クラシックの名曲やフォルクローレを活かしたオリジナル編曲などを含んだ内容の濃いプログラムが実現した。

特に創造性が認められた主な取組みは以下の通り。

<アフタヌーン・コンサート>

- ・尺八と合唱の協演、指揮者の即興的指示による柴田南雄作曲「追分節考」
- ・オーストラリアのアボリジニの民謡に基づく独特なポリフォニー音楽「コンダリラ」
- ・演奏者が客席内を移動しながら完全に即興で演奏する合唱によるフリージャズセッション

<オープンシアター>

・長い壁面のある神奈川県民ホールギャラリーの展示室の第3展示室全体を活用し、「木のホール・音楽堂のある街」をテーマに新しく制作した全長21mの巨大ぬり絵

・「森の音楽堂」をテーマに、ミニコンサート会場でもあり来館者の憩いの場でもある、吹き抜けのある神奈川県民ホールギャラリーの第5展示室の大きな空間全体を映像、照明、装置で広い森のような空間に変容させ、会場全体の環境を想像力の遊ぶ世界に作り替えた滝善光による美術。

・エレクトロニクスとピアノの即興演奏の融合で、子どもたちが描いた絵をその場で新しい曲に昇華した、コンポーザー・ピアニスト上水樽力による、「音を絵にする 絵を音にする」の美術と音楽の双方向コミュニケーションワークショップ。

・子どもたちがその場で工作し、完成品をもって会場でのミニコンサートに参加できる紙の太鼓の新しい意匠。

<三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！>

・「みんなでオペラの登場人物になろう」をテーマに、長い楽曲の一部を子どもでも参加可能な長さ、二部合唱に編曲し、日本語の歌詞をつけてオーケストラと協演可能にした、合唱指揮者辻博行編曲・訳詩による、ヴェルディ「アイダ」『凱旋マーチ』。

・オーケストラの演奏する舞台の空間制限野中で、子どもたちにわかりやすく名作バレエ音楽の『愛の物語』を伝えた、鈴木和子の振り付けによる「ロミオとジュリエット」『バルコニーのシーン』。

<子どものためのアウトリーチ>

・視覚に困難を抱えた平塚盲学校の子もたちが初めて聴く世界の様々な打楽器との新鮮な出会いを、演奏と環境、触れ合いタイムで多角的に演出し、音楽の喜びを伝えた、パーカッション奏者若鍋久美子のワークショップ。

<二市八町>

・真鶴町立中川一政美術館で同館コレクションの一政によるオリジナル油彩画から、一政の人生をテーマに、バッハ等の名曲で組まれたプログラムに合わせて作品選択を行なった同館学芸員のキュレーションと、そのセレクションからコンサート来場者の投票によってその場で選ばれた作品のイメージでコンポーザー・ピアニスト上水樽力が行なった即興演奏。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

全事業普及啓発事業で構成したため、有料公演でも9割の事業で何らかの形で聴衆や地域住民が自ら参加するプログラムを取り入れ、また出演者、スタッフにも地元の実演家、スタッフを起用し、地域の文化芸術振興に務めた。該当する主な取組みは下記の通り。

<メサイア>

・神奈川県合唱連盟との連携により、県下で活動する合唱団員から公募した合唱団員150名による、3時間近い大曲メサイアの全曲演奏〔応募資格から、従来設けていた「小泉ひろし指揮の下で『メサイア』を歌ったことがある」という限定的条項をはずし、「これまで『メサイア全曲』を3回以上歌ったことがある」に拡大〕。

・うち半数以上が県内の県立・私立の高等学校、中等教育学校5校の高校生が全曲歌唱に参加する「メサイア未来プロジェクト」の継続。その卒業生である大学生約20名の参加により、本年度約80名の若い世代の参加が実現。

・高校生の発声指導に県内の昭和音楽大学声楽科の学生、大学院生4名を起用。

・神奈川フィルハーモニー管弦楽団の起用。

<オープンシアター>

・アーティストの紹介や全体のプログラム進行のプランニングなど、制作協力で地元認定NPOあっちこっこのスタッフと協働。

<三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！>

・神奈川フィルハーモニー管弦楽団の起用。

・舞台スタッフや受付案内など音楽ホール、コンサートを支える仕事をプロの舞台スタッフやレセプションに現場で教わり本番までをやり遂げる地元の子どもたちの仕事体験プログラム「ジュニアスタッフ」。

・県内のアマチュアオーケストラを代表する横浜交響楽団と湘南弦楽合奏団による子どもたちへの楽器体験ワークショップ。

・名作バレエ音楽「ロミオとジュリエット」『バルコニーのシーン』の『愛の物語』をオーケストラの演奏する舞台の空間制限の中で、子どもたちにわかりやすく伝えるため神奈川県芸術舞踊協会所属の鈴木和子を振り付けに起用。

<子どものためのアウトリーチ>

・視覚に困難を抱えた平塚盲学校の子どもたちが初めて聴く世界の様々な打楽器との新鮮な出会いを、演奏と環境、触れ合いタイムで多角的に演出し、音楽の喜びを伝えた、パーカッション奏者若鍋久美子のワークショップ。

<二市八町>

・「春めき桜コンサート」での、市原愛（Sop）林美智子（MS）加来徹（Bar）ら一流の歌手と地元で活動する女声コーラス、南エコーコーラスの共演。

・「東京混声合唱団 小田原特別公演」での地元にはゆかりの深い北原白秋生誕100年を機にした、組曲『赤い鳥小鳥』における、東京混声合唱団と、地元児童合唱団「小田原少年少女合唱隊」の共演。

・箱根町の有料介護付老人ホームで行なった入所者向けコンサート「すきとおったソプラノでさく春の歌」への、県内横須賀出身の歌手横森由衣（Sop）の起用。（*横森は「三ツ橋敬子の新★夏休みオーケストラ！」にも聴衆参加の合唱ファシリテーターとして起用。）

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

持続的な活動を可能にし、劇場機能を強化していくために、以下の取り組みを総合的に行っている。

（１）関係者ネットワークの強化

- ・毎年安定して新作公演をツアーや共同制作で各地へ巡回できる体制を整えることで、外部業者等に頼らない当団体独自の劇場間ネットワークを構築している。
- ・関係団体（県公立文化施設協議会、劇場・音楽堂等連絡協議会、公共劇場舞台技術者連絡会等）において中心的な役割を担うことで、作品の巡回だけでなく、運営ノウハウの共有や相互の人材交流などを積極的に行っている。

（２）財源の多様化

- ・指定管理業務のほかに、県の文化芸術に関する委託事業を、劇場の専門性を活用する提案で受託することで、県の文化政策に積極的に参画している。
- ・ミュージカルのロングラン公演の貸館を誘致することで、利用料金収入の安定化を図るとともに、収益の一部を文化事業へ充当するほか貸館来場者への広報を行うなど、効果的な劇場運営に努めている。
- ・寄付金集めの専従担当者を置き、県内の企業及び個人を中心に賛助会員組織を運営しているほか、インターネットを通じた小口寄付の仕組みを整備し、寄付者の拡大を図っている。

（３）評価と改善

- ・設置者が行う専門家による外部評価のほか、法人独自の外部評価の仕組みを整備し、専門委員による視察と評価会議を開催し、課題抽出と業務改善を行っている。
- ・外部委員と劇場スタッフによる検討会を設置して、劇場運営についての理念やミッション等をまとめたビジョンを新たに作成し、劇場スタッフの行動指針として共有していくこととしている。

（４）雇用

- ・トップマネジメントの強い指導のもと、「働き方改革」に向けた取組みを開始し、ワークライフバランスの取れた労働環境の創出に努めている。